

福井大学外科専門研修プログラム



福井大学外科専門研修プログラム管理委員会

1. このプログラムについて

福井大学外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です.

- 1) 専攻医が医師として必要な診療能力を習得すること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより, 患者に信頼され, 標準的な医療を提供でき, プロフェッショナルとしての誇りを持ち, 患者への責任を果たせる外科専門医になること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民及び地域住民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域(消化器外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科, 小児外科, 乳腺内分泌外科)の専門研修を行い, それぞれ領域の専門研修へと継げていくこと

2. 研修プログラムの施設群

福井大学附属病院と連携施設(14施設)により専門研修施設群を構成します.

本専門研修施設群では58名の専門研修指導医が専攻医を指導します.

専門研修基幹施設

名称	都道府県	1:消化器外科 2:心臓血管外科 3:呼吸器外科 4:小児外科 5:乳腺内分泌外科 6:その他(救急含む)	1. 統括責任者名 2. 統括副責任者名
福井大学附属病院	福井県	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 五井孝憲 2. 福井伸哉

専門研修連携病院(五十音順)

No.	名称	都道府県		連携施設担当者名
1	市立敦賀病院	福井県	1. 2. 3. 4. 5. 6.	村上真
2	公立丹南病院	福井県	1. 4. 5. 6.	北島竜美
3	公立小浜病院	福井県	1. 2. 3. 4. 5. 6.	林泰生
4	敦賀医療センター	福井県	1. 4. 6.	飯田敦
5	中村病院	福井県	1. 2. 5. 6.	太田信次
6	春江病院	福井県	1. 5. 6.	小林泰三
7	福井勝山総合病院	福井県	1. 5. 6.	田口誠一
8	福井県立病院	福井県	1. 2. 3. 4. 5. 6.	石川暢己

9	福井厚生病院	福井県	1. 2. 6.	服部昌和
10	福井赤十字病院	福井県	1. 3. 5. 6.	青竹利治
11	福井総合病院	福井県	1. 5. 6.	恩地英年
12	福井県済生会病院	福井県	1. 2. 3. 5.	天谷 奨
13	福井循環器病院	福井県	2.	門田 治
14	総合病院南生協病院	愛知県	1. 2. 3. 5. 6.	中澤俊之

3. 専攻医の受入数について

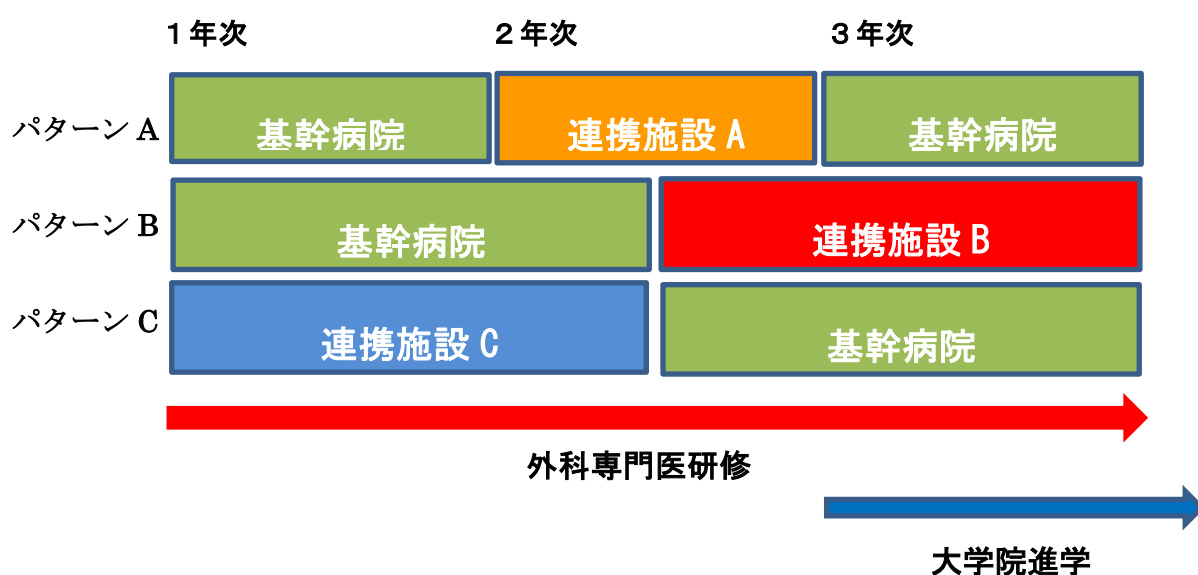
本専門研修施設群の3年間のNCD登録数は、11,538例で、専門研修指導医58名のため、本年度の募集専攻医数は9名です。

4. 外科専門研修について

- 1) 外科専門医は初期臨床研修終了後、3年（以上）の専門研修で育成されます。
 - 3年間の専門研修期間中、基幹施設で最低6か月以上、連携施設で最低6ヶ月以上の研修を行います。
 - 専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度と外科専門研修プログラム整備基準に基づいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
 - 将来のサブスペシャリティを決めている専攻医には消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科のサブスペシャリティ領域の**専門医連動コース**を設けます。また、外科医を志望するが専門分野はじっくりと決めたい専攻医には1年目にバランスよく各分野を経験できる**外科全般コース**を設けます。
 - 専門研修期間中に大学院に進学することも可能です。大学院コースを選択して臨床に従事しながら研究を進めるのであればその期間は専門研修期間として扱われます。
 - 本研修プログラムを選択する専攻医は、原則サブスペシャリティ領域専門医取得を目指してもらう予定です。サブスペシャリティ領域によっては外科専門研修2年目から連動研修を開始できる領域があります。
 - 研修プログラムの修了判定には既定の経験症例数が必要です。（専攻医研修マニュアルー経験目標2ーを参照）
 - 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができます。
- 2) 年次ごとの専門研修計画

- 専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次ごとの研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。
- 専門研修 1 年目では、基本的診療能力及び外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に行われるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learning や書籍や論文などの通読、日本外科学会のビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。専攻医はさらに学会・地方会・研究会などへの参加を通して専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修 2 年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医は前年度に引き続き学会・研究会への参加を通して専門知識・技能の習得を図ります。また日本専門医機構が認定したサブスペシャリティ領域の研修登録を申請した専攻医は、専門研修 2 年目からサブスペ領域の連動研修が開始されます。
- 専門研修 3 年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも関わり、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。アニマルラボなどへの研修も積極的に参加し、カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修を継続します。

下図に福井大学外科研修プログラムにおける研修ローテーションの 3 パターンを示します。希望する将来のサブスペシャリティによってパターンは変わります。



福井大学外科研修プログラムでの 3 年間の施設群ローテーションにおける研修内容と予

想される経験症例数を下記に示します。内容と経験症例数に偏りや不公平が生じないように十分配慮します。

福井大学外科研修プログラムの研修期間は3年間としていますが、習得が不十分な場合は習得できるまで期間を延長することになります（未修了）。一方で、希望分野が決まっていて、カリキュラムの技能を習得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能教育を開始します。また大学院進学希望者は臨床研修と並行して研究を開始することができます。

■ 専門研修1年目

原則、福井大学附属病院にて研修を行います。連携施設での研修も可能です。

一般外科/救急/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌

経験症例120例以上（術者40例/年以上）

■ 専門研修2年目以降

連携施設群のうちいずれかに所属し研修を行います。

一般外科/救急/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌

経験症例300例以上/2年（術者100例以上/2年）

サブスペ領域の研修登録者は、2年目から連動研修を開始します。

■ 専門研修3年目

不足症例に関して選択希望のサブスペシャリティも考慮してローテートします。

研修の週間計画

基幹施設（福井大学）

第1外科（消化器外科・乳腺・内分泌外科）週間予定

	月 乳		火 乳		水 乳		木 乳		金 乳	
Morning	8:00- ミーティング		8:00- 術前カンファレンス		8:00- ミーティング		8:00- 勉強会		8:00- ミーティング	
AM	8:30- 手術	9:00- 外来	9:00- 外来	9:00- 外来	8:30- 手術	8:30- 手術	教授回診		8:30- 手術	9:00- 外来
PM							9:30- 外来	9:30- 外来		
Evening	手術	病棟業務	外来 検査 病棟業務	外来 検査 病棟業務	手術	外来 検査 病棟業務	外来 検査 病棟業務	手術	手術	外来 検査 病棟業務
							合同カンファ			

第2外科（心臓血管外科・呼吸器外科）週間予定

	月 肺		火 肺		水 肺		木 肺		金 肺	
Morning					7:50- 論文抄読会、カンファ					
AM	9:00- 外来	9:00- 外来	8:30- 手術	8:30- 手術	9:00- 外来	9:00- 外来	8:30- 手術	9:00- 外来	病棟業務	8:30- 手術
PM	病棟業務	14:00- カン ファ 回診	手術	手術	14:00- カンファ 回診	病棟業務	手術	病棟業務	病棟業務	手術
Evening	17:00- 麻酔 科とのカン ファ	16:00- 呼吸 器合同カン ファ								
	17:30- 合同カンファ、医局会		17:00- 薬品説明会							

連携施設（福井県立病院例）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30 キャンサーボード、術前カンファレンス							
8:00-8:30 問題症例カンファレンス							
8:00-8:30 抄読会							
8:30-12:00 午前外来、病棟業務							
13:00-16:00 午後外来、病棟業務							
9:00- 手術							
13:30-15:00 科長回診							
17:00-17:30 外科死亡症例、緊急手術症例検討会							
17:00-18:00 消化器カンファレンス							
17:30-18:30 上部消化管・放射線治療カンファレンス(隔週)							
18:00-19:00 肝・胆・膵カンファレンス(隔週)							

5. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

- 専攻医研修マニュアルの到達目標 1（専門知識）、到達目標 2（専門技能）、到達目標 3（学問的姿勢）、到達目標 4（倫理性、社会性など）を参照してください。

6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得（専攻医研修マニュアル-到達目標 3-参照）

- 基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。
- 放射線診断・病理合同カンファレンス：手術症例を中心に放射線診断部とともに術前画像診断を検討し、切除検体の病理診断と対比します。
- Cancer Board：複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、内科など関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどによる合同カンファレンスを行います。
- 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。
- 基幹施設と連携施設による症例勉強会：各施設の専攻医による研修発表会を年1回福井大学において行い、発表内容や態度も含めて指導医や同僚・後輩から意見や質問を受けて討論を行います。
- 大動物を用いたトレーニング設備や教育DVDなどを用いて積極的に手術手技を学びます。
- 日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、e-learning、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。

- ◆ 標準的医療および今後期待される先進的医療
- ◆ 医療倫理、医療安全、院内感染対策

7. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらにえられた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。（専攻医研修マニュアル-到達目標3-参照）

- 日本外科学会定期学術集會に1回以上参加
- 指定の学術集會や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて（専攻医研修マニュアル-到達目標4-参照）

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

- 1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）
 - 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。
- 2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること
 - 患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとの的確な医療を目指します。
 - 医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。
- 3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること
 - 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。
- 4) チーム医療の一員として行動すること
 - チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。
 - 的確なコンサルテーションを実践します。
 - 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。
- 5) 後輩医師に教育・指導を行うこと

➤ 自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。

6) 保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること

- 健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
- 医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
- 診断書、証明書が記載できます。

9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1) 施設群による研修

本研修プログラムでは福井大学医学部附属病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成してします。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。大学だけの研修では稀な疾患や治療困難例が中心となりcommon diseasesの経験が不十分となります。この点、地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得します。このような理由から施設群内の複数の施設で研修を行うことが非常に大切です。福井大学外科専門研修プログラムのどのコースに進んでも指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮します。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、福井大学外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

2) 地域医療の経験（専攻医研修マニュアル-経験目標3-参照）

地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

- 本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）が入っています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。
- 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。
- 消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

10. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル-VI-参照）

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。また指導医や専門研修プログラムに対する評価で専攻医が不利益を被ることがないように研修プログラム統括責任者は配慮します。

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専攻医研修マニュアルVIを参照してください。

1 1. 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である福井大学附属病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。福井大学外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、外科の4つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

1 2. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。勤務時間外の仕事を極力減らして、専攻医の働き方改革を進めます。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘル스에配慮します。
- 3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

1 3. 専門研修指導医の研修計画

日本専門医機構、日本外科学会、サブスペシャリティ領域学会などが開催するFD講習会に専門研修指導医は積極的に参加します。また専攻医による評価もフィードバックするようにします。

1 4. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症

例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。この際看護師などのメディカルスタッフの意見も参考にして評価を行います。

15. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

専攻医研修マニュアルVIIIを参照してください。

16. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

研修実績および評価の記録

外科学会のホームページにある書式(専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録)を用いて、専攻医は研修実績(NCD登録)を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。

福井大学外科にて、専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

- 専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

- 指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

- 専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに登録します。

- 指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

17. 専攻医の採用と修了

採用方法

福井大学外科専門研修プログラム管理委員会は、毎年6月から説明会等を行い、外科専攻医を募集します。プログラムへの応募者は、9月30日までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『福井大学外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。申請書は(1)福井大学附属病院のwebsite (<http://sotsugo.hosp.u-fukui.ac.jp/specialist>)よりダウンロード、(2)電話で問い合わせ(0776-61-8600)、

(3) e-mailで問い合わせ (sotsugo@med.u-fukui.ac.jp) 、のいずれの方法でも入手可能です。原則として10月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。その後も随時選考を行います。応募者および選考結果については福井大学外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を、日本外科学会事務局および、外科研修委員会に提出します。

- ・専攻医の氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度
- ・専攻医の履歴書
- ・専攻医の初期研修修了証

修了要件

専攻医研修マニュアル参照

18. サブスペシャリティー領域の連動研修について

日本専門医機構が認定したサブスペシャリティー領域の研修登録を申請した専攻医は、外科専攻医2年目から、サブスペ領域の連動研修が認められています。当院では、サブスペ領域研修の認定業務が始まった、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科の領域で、連動研修が可能です。今後認定業務が始まる予定の消化器外科、小児外科領域では、各専門領域の学会認定の専門研修が、以前と同様に可能です。

(平成28年1月21日作成 第1版)

(平成29年5月19日作成 第2版)

(平成29年10月12日修正 第2版)

(平成30年5月1日作成 第3版)

(平成31年4月1日作成 第4版)

(令和元年5月29日修正 第4版)

(令和 2年7月 1日作成 第5版)

(令和 3年4月30日作成 第6版)

(令和 4年5月02日作成 第7版)

(令和 5年5月 8日作成 第8版)

(令和 6年4月30日作成 第9版)

(令和 7年5月 6日作成 第10版)

(令和 8年5月 1日作成 第11版)